

令和5年度 常安小学校 学校努力点とその推進計画

1 研究テーマ

自分の思いや考えを友達と伝え合うことができる子

～グループワークトレーニングを柱とした実践を通して～（2年次）

2 研究テーマについて

本校ではR2年度の努力点より「人とのよりよい関わり方」の向上を目指し、2年間継続してSST（ソーシャルスキルトレーニング）の実践を行った。実践の成果として人とよりよく関わるための様々なソーシャルスキルを向上させることができたが、学校生活アンケート等の結果により、他者を尊重する姿勢が実行されている尺度である「配慮のスキル」の方が高いという特徴が浮き彫りになった。相手の考えや気持ちに共感したり、配慮したりすることができるが、一方で、能動的に関わる姿勢を示す「関わりのスキル」が前者に比べると低く、自分の思いや考えを伝えることに消極的であり、相手の考えに共感しすぎて自分の考えを表せなくなっているという実態である。しかし、対人関係をよりよいものにし、学校生活において互いに学び合い、それを豊かにしていくためには、「配慮のスキル」と「関わりのスキル」の両方をバランスよく身に着けていること（アサーション）が必要である。

そんな中、昨年度は「自分の思いや考えを友達に伝えることができる子」の育成を目指して努力点実践を行ってきた。具体的な実践としては、話す・聞く力を育てるための共通指導事項の設定と活動の充実、「グループワークトレーニング」を柱とした授業実践である。1年間の様々なGWT（自分の思いや考えを伝える活動）を通して、自分の思いや考えが友だちに受け入れられたといった成功体験から、人と能動的に関わっていく「関わりのスキル」の伸びが見られ、自己表現や自己主張を肯定的に捉えて実践していきたいという意識が児童のアンケート結果から見られた。

今年度は昨年度の授業実践の課題を改善しながら、自分の思いや考えを伝え合う活動（GWT）のさらなる充実を通して、目指す児童像にせまっていく。さらに、昨年度に意識させるまでには至らなかった「アサーション（バランスの良さ）」についても、児童が自分の特性を認識し、目標をもちながら学校生活に臨もうとする児童を目指したいと考える。

3 令和5年度研究について

(1) 研究の方法

① 実態調査

学校全体で、5月・2月に「自己表現・自己主張」のアンケートを行い、児童の変容を見る。また、6月・10月に行われる学校生活アンケート（QU）も客観的な指標として活用する。7・10・1月にアサーションについてのアンケートを行い、担任がそれぞれの児童の状況や目標を把握する。

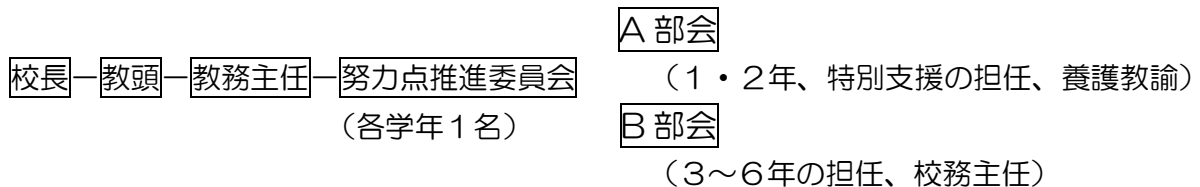
② 実践方法（研究の主な手立て）

I 話すこと・聞くことに関する活動の充実 「話し方」「聞き方」の共通指導事項を各教室に掲示すると共に、これらの態度が身に付くように今年度も指導を継続していく。

また、朝学等では、「なごやっ子チャレンジスピーチ」を意識して活用し、話す力や聞く力や、話し合う力を高めるための方法を工夫し、練習・習熟を行う。

II 7月にアサーションという姿勢を学ぶ（ビデオ視聴か 授業）。それを基にして、年間で2回（2学期1実践・3学期1実践）を目途としてGWTを行う。そのうちの1実践を公開するものとする。トレーニングの内容については、「自己表現」や「自己主張」などの内容が活動の中に取り込まれているものを取りあげる。授業の冒頭、アサーライズに関する立場の確認を行うようにする。また、振り返りの活動に重きを置き、「自己表現」「自己主張」に関する振り返りが行われるようにする。授業実践については、メインの活動と振り返りの活動が可能な限り同時間に行われるよう、指導の仕方を工夫する。

(2) 研究の組織



① 部会

- ・ 教材を開発したり、授業検討を行ったりする。
- ・ 1月末日までに全員が授業実践を行う。
- ・ 部会内で部長を決め、各部会での検討や調整を行う。

② 全体会

- ・ 推進計画全体会（4月7日）、中間報告会（8月28日）、最終報告会（2月29日）を行う。

③ 努力点推進委員会

- ・ 努力点推進に関する検討を行う。実施日は年間計画や行事予定で示す。
- ・ 教務主任、各学年1名（推進委員長・副委員長は兼務）で構成する。